

酒田港を物流拠点化

山形物流 年内に戦略案策定

【黒田秀男】山形県自性を探るために設置された自動車物流活性化推進会議(黒田昌裕委員長、東北公益分科大学長)は、十二日、山形市で第二回会議を開いた。自動車関連企業の東北進出を踏まえ、酒田港をロシア・北東アジア向けの国際物流拠点とする戦略案を検討。年内に物流活性化戦略を策定する。

推進会議はことし五月、自動車産業の集積化を背景に、完成車や自動車部品などの積み出し拠点として、酒田港の可能

性を高めるために設置された。酒田港の利用拡大や機能強化、県内製造業の集積化・高度化、交通インフラの整備を検討し、戦略案として提言する役割が割り当てられている。

東北ではトヨタの組み立て工場、セントラル自動車などが二〇一〇年の稼働を目指して宮城県大衡村に全面移転を決め、関連企業も相次いでいる。このうち自動車産業の集積化をどう実現するかが別問題。受注システムや生産管理の技術も必要ではあるという発言があった。

これに対して「モノづくりの面で、県内企業の技術力は東北の他県に勝っている。しかし、競合関係にある企業の連携に課題がある。単に技術力があること自動車産業に参入できるかは別問題。受注システムや生産管理の技術も必要ではあるという発言があった。

自動車物流活性化推進会議(黒田昌裕委員長、東北公益分科大学長)は、十二日、山形市で第二回会議を開いた。自動車関連企業の東北進出を踏まえ、酒田港をロシア・北東アジア向けの国際物流拠点とする戦略案を検討。年内に物流活性化戦略を策定する。

「モノタ進についても「荷物がなター」などの意見が出さなければ船社は寄港しなれた。これを踏まえて、推進会議は今月中に戦略案をまとめ、県民にハブリックコメントを募る。それを受け、県は最終的な物流戦略を策定する。」



ターミナル、倉庫の拠点化を想定